

# 新たな情報発信の 名称と色（案）

---

---

令和2年10月19日

# 名称について

## 1. これまでの検討会での主な議論：

- 「判り易い、かつ内容を想起されやすいネーミング」であることが重要。
- 現行の名称は、暑さ指数の段階が「警戒」「嚴重警戒」「危険」となっていることから、「警戒」が名称に入っていると、段階との整合性の観点から、混乱を生じる可能性があるのではないか。
- 「アラート」という単語からは、他の「Jアラート」などのように、即時に何かしなければならぬ情報であると誤解される可能性があるのではないか。
- 「熱中症アラート」ではどうか（言葉を流行らせるには、オリパラのように、略して「熱アラ」等）。
- 「熱中症危険アラート」ではどうか。
- 名称を公募するというのも一案では。

## 2. 留意事項：

- 「警報」については気象業務法で定めがあり、使用は難しい。
- 「熱中症アラート」については、既に民間企業が同名のサービスで、長年使用している実績有り。

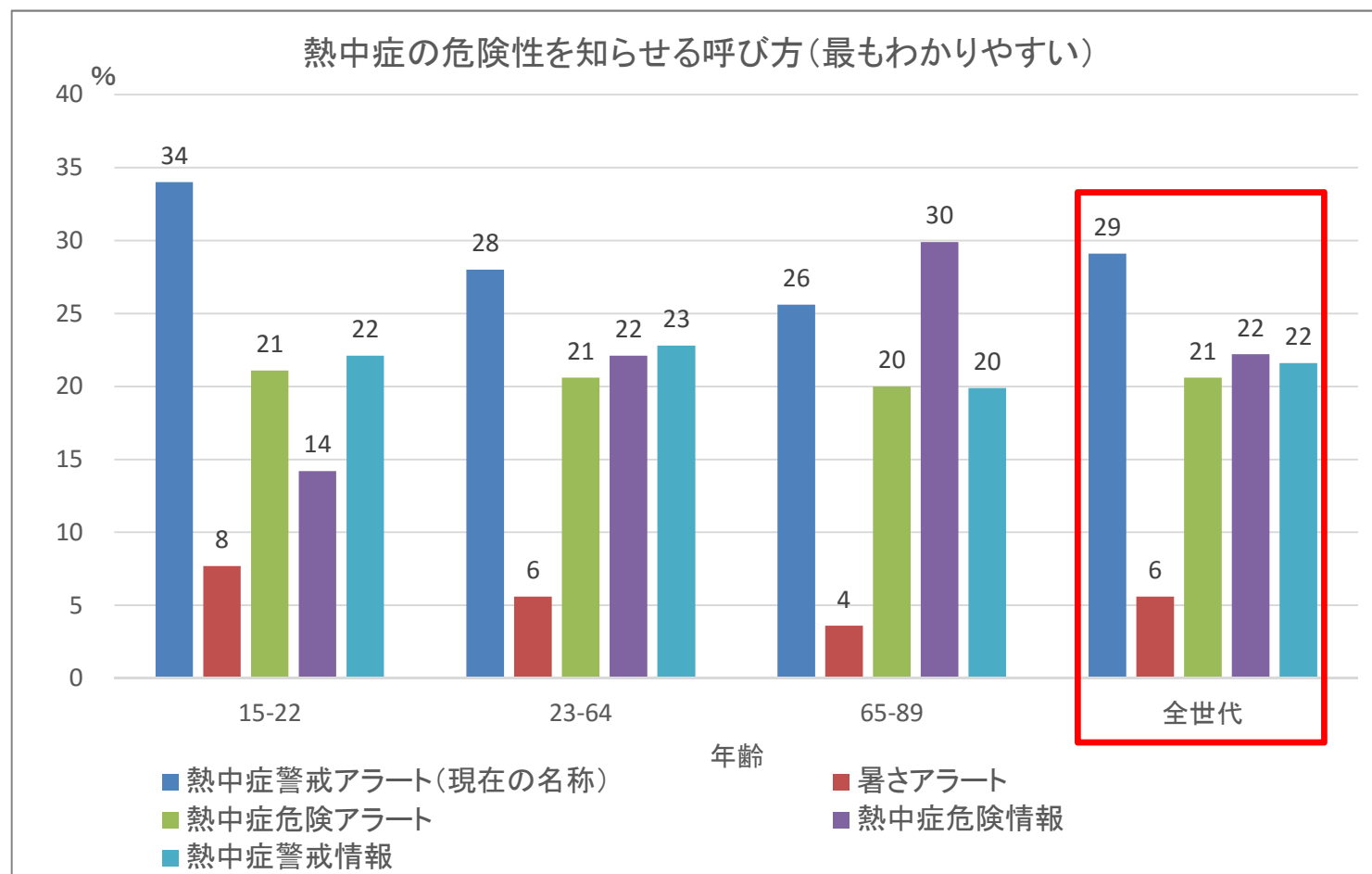
# 一般の方を対象としたアンケート結果

- 8月・9月の2回に分けて計3,182人を対象に実施したWebアンケート（※）で、「熱中症の危険性が特に高い暑さになると予想される日を知らせる際の情報について、どの呼び方が最もわかりやすいと思いますか」と尋ねたところ、次のような結果であった。（※ 詳細は資料3-1のp4）

（選択肢）

- 熱中症警戒アラート
- 暑さアラート
- 熱中症危険アラート
- 熱中症危険情報
- 熱中症警戒情報

- また、アンケートの中に自由記述の欄も設けていたが、採用できそうな名称についての提案はなかった（例：熱中症警報、など）



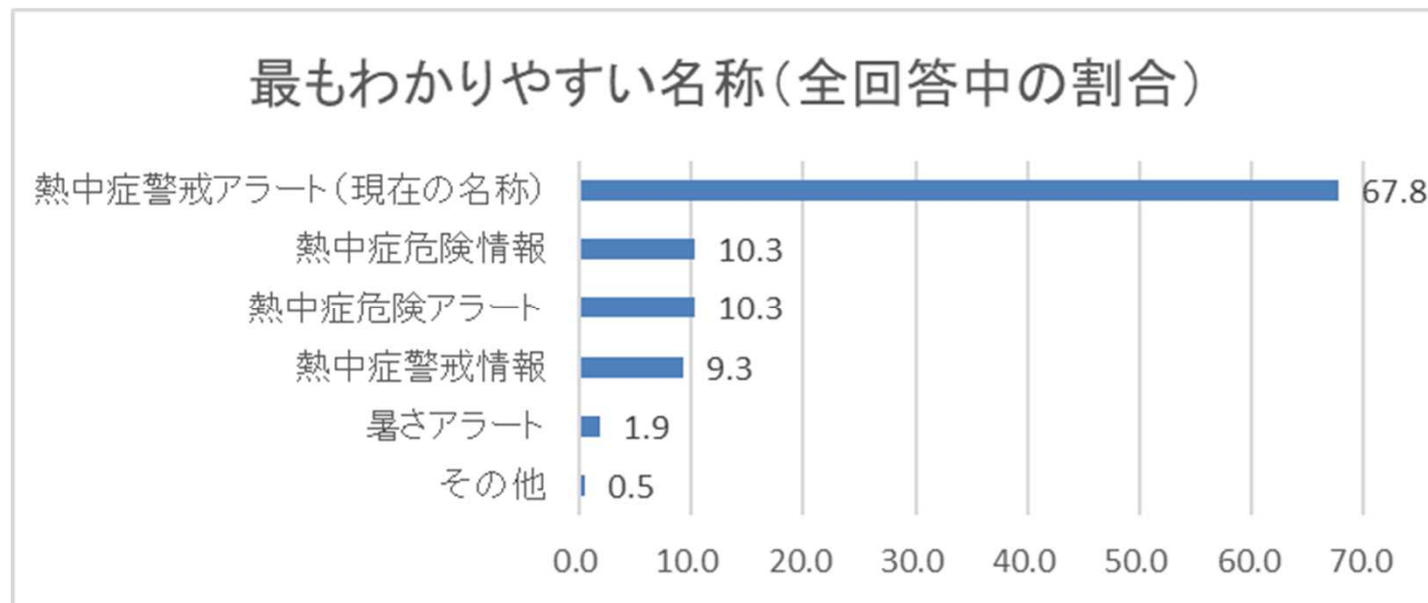
## 自治体・教育委員会を対象としたアンケート結果（途中経過）

### 調査概要

- 手法： インターネットリサーチ 地域：関東甲信（1都8県）
- 対象： 地方自治体：都県庁／市役所／区役所／町役場／村役場（9+420）  
教育委員会：都県・市区町村の教育委員会（9+420）
- 期間： 10月1日（木）～21日（水）
- 途中集計：10月13日（火）時点で回収できたもの。  
自治体163機関(38%)、教育委員会256機関(60%)：総計419機関

### （選択肢）

- 熱中症警戒アラート
- 熱中症危険情報
- 熱中症危険アラート
- 熱中症警戒情報
- 暑さアラート
- その他



## 対応方針（案）

以下の理由から、令和2年度の試行で使用した「**熱中症警戒アラート**」の名称を令和3年度以降も使用してはどうか。

- 一般の方を対象としたアンケート結果からは、年代によって多少差があるものの、突出して支持される名称は無い（総じれば比較的、現行名称の支持が多い）。
- 同じく、アンケート結果では、令和2年度の試行の段階で、既に関東甲信地方の7割以上（74.4%）の方に認知されており（全国の人口に当てはめると約3割）、新たな名称を設ける（名称変更する）際には、それなりのデメリットも考えられる。
- 名称には、「わかりやすさ」の観点からある程度の制約（例えば、「熱中症」と注意を喚起するための何かの単語を入れる必要）があるため、アンケートで示したような選択肢以外に、あまり幅が考えられない。
- 「アラート」の即時的な語感や、高齢者にはややなじみにくい点を、「警戒」という言葉を組み合わせることで、中和したり、なじみやすくしている。

# 色について

## 1. 暑さ指数（WBGT）の5段階の配色の統一について

環境省熱中症予防情報サイトの現在の配色



NHK気象情報より引用



(赤)危険	:31℃～
(橙)嚴重警戒	:28～31℃
(黄)警戒	:25～28℃
(水)注意	:21～25℃
(青)ほぼ安全	:～21℃

段階	カラーコード
危険	#FF2800
嚴重警戒	#FF9600
警戒	#FAF500
注意	#A0D2FF
ほぼ安全	#218CFF

＜平成31年度 色のバリアフリーに配慮し配色を変更＞

➤ **miChecker\***を用いて**ロービジョンシミュレーション\***実施済み

\* miCheckerとは、総務省提供のWebアクセシビリティ評価ツールのこと

\* ロービジョンシミュレーションの設定は、

「視力0.5、年齢40歳」と「視力0.5、年齢60歳」の  
**第一色覚異常、第二色覚異常、第三色覚異常**の計6パターンで確認

青	緑	赤	名称	症状
○	○	×	第一色覚異常	赤系統 - 緑系統の色弁別に困難が生じるが、正常色覚とほぼ同程度の弁別能を持つ者も多い
○	×	○	第二色覚異常	
×	○	○	第三色覚異常	正常色覚とほとんど変わらないが、正常色覚と比べて全体的に色がくすんで暗く見える

➤ 検証機関である**NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)**のアドバイスを仰ぎ配色決定

暑さ指数（WBGT）の5段階の配色は、報道等でも上記に統一されるよう働きかけたい

# 色について

## 2. 熱中症警戒アラート発表時の地図表示等の配色の統一について

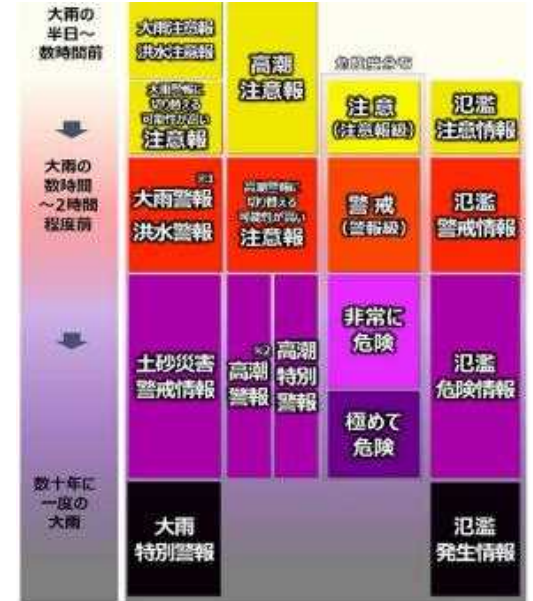
《現状》 統一的な色が定まっていないため、

- アラートのイメージ定着が遅れる
- 各団体にて、都度、判断が必要
- 国民が、色の違いによって危険度を判断しづらい  
などのような状況が生じている

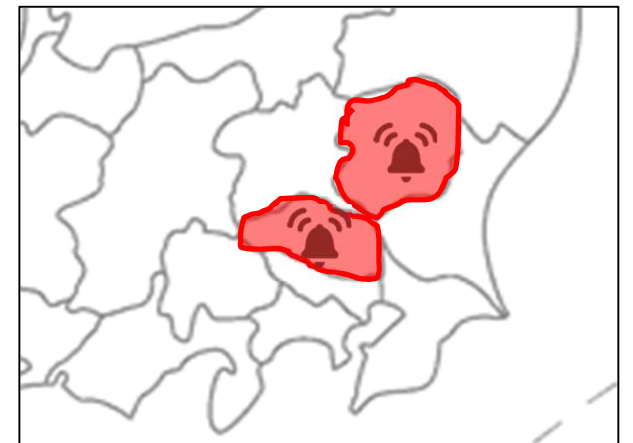
《今後》 統一的な情報発信に向けて**同じ色を使用していただくよう、報道各社に働きかけたい**。具体的な色としては次の案が考えられる。

- (案1) 環境省サイトの**既存色(赤)**をアラートにも使用
- (案2) アラートレベルに**新色**を設ける(例：**紫色**)
- (案3) 環境省サイトの**既存色(赤)**に**マーク等**を加える

防災情報の色 (気象庁HPより)



※ (案3) イメージ



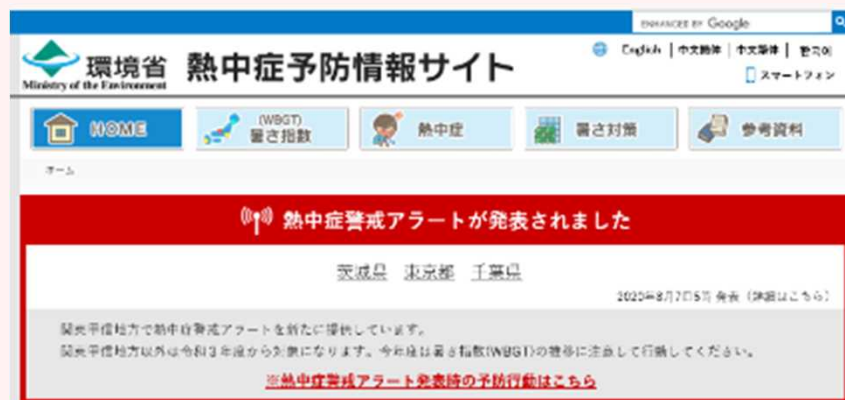
	メリット	デメリット
(案1)	WBGT31℃以上の重大性と一体となって発信出来る バリアフリーチェックが不要	熱中症警戒アラートの視覚的インパクトが薄らぐ
(案2)	熱中症警戒アラートの視覚的インパクトが強まる	WBGT31℃以上の重大性が弱まる可能性大
(案3)	WBGT31℃以上の重大性と一体となって発信出来る 一部、視覚的インパクトが出る	統一やイメージ定着に、時間を要す可能性大

➤ アラート発表時の地図表示等の配色についても、出来る限り統一を図っていくことが望ましい。

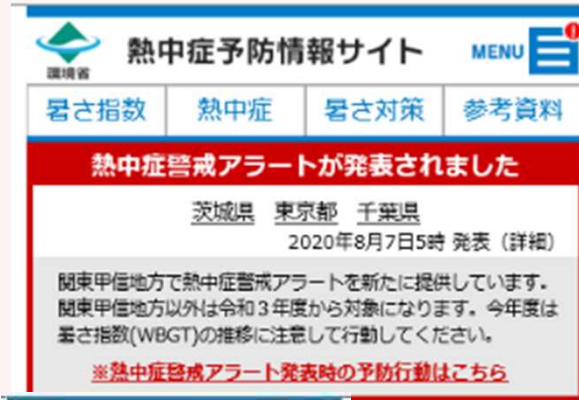
# 熱中症予防情報サイト アラート発表に伴う変更箇所

- アラート発表に伴う表示変更箇所 (TOP画面等)

## アラート発表時の表示



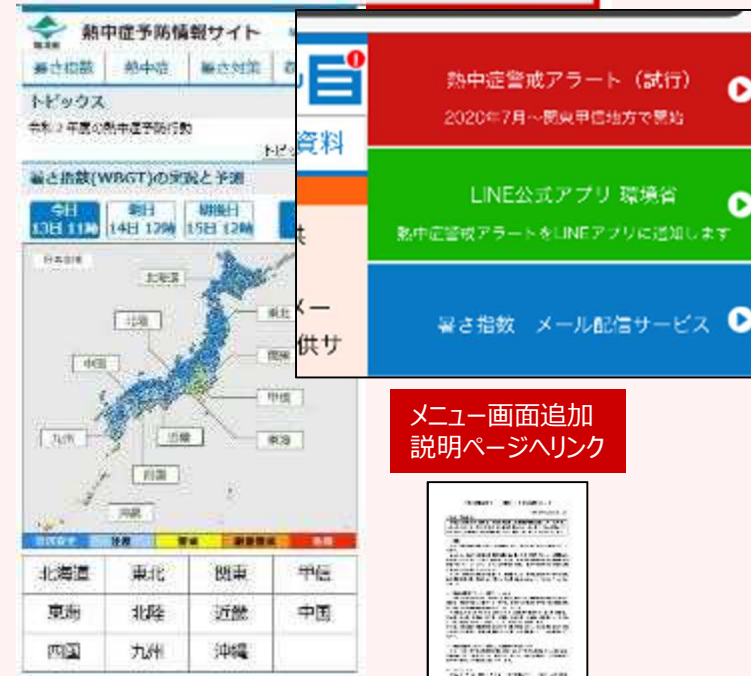
## アラート発表時の表示



7月1日以前



7月1日以後 (ホームページ)



7月1日以後 (スマホページ)



# (参考) 熱中症予防情報サイト 年度毎のアクセス数

